

高齢過疎地域における人々のつながりに関する研究 (3)

—大隅半島 A 地域の実態—

A Study on the Human Networks in an Aging and Depopulated District (3)
—The Actual Situation in A Region of Osumi Peninsula—

古川恵子*・本間俊雄**
Keiko Furukawa, Toshio Honma

*鹿児島女子短期大学 **鹿児島大学

抄録：鹿児島県内で高齢化率第1位の町にあるA地域を前年度に続き第2の調査対象地域とし、20歳以上の住民を対象に個別聞き取り調査を行い、集落内、集落外との人々のつながりの現状を把握し分析した。その結果、医療施設の問題や若者の定住促進、近年深刻な問題になっている獣害等の課題が前報と同じく明らかになった中で、A地域では、高齢者たちが地域内外の人たちと安定したつながりの中で生活していることが明らかになった。高齢で農作業をしている人が多く、外出もよくされており地域内のまとまりが強く、他地域からの転入者が馴染みにくい側面はあるものの、社会活動に参加し交流も活発で、緊急時に活かされる人のつながりも常時とそれほど変わらないことが確認できた。このことは両地域とも同じである。また、非親族とのつながりも親族と同程度に多いということも明らかになった。課題はあるが、A地域では、S地域同様緊急時においても期待できる素地があることが確認できた。

Key words：高齢過疎地域、人々のつながり、常時と緊急時

1. はじめに

高齢過疎地域における人々の生活の継続性については、公助と共に地域住民の互助、共助で担わざるをえない状況にある。本研究は前報^{注1)}と同じく、鹿児島県で最も高齢化が進んでいる地域の住民のつながりから、地域の特性や課題を把握し、生活維持・継続につなげる知見を得ようとするものである。



図1 調査対象地域の位置

2. 研究の目的と方法

本研究は、図1に示す大隅半島A町のA地域を対象とした。前報の対象地域S地域と同様に、集落内・集落外・地域全体の人々のつながりの現状に関して、戸別訪問し世帯の20歳以上の各人に個別聞き取りを行った。地域による違いを比較し、まちづくりや緊急時の連携に向けた知見を得ることを目的としたものである。

2.1 調査対象地域の概要

A地域は、S地域と異なり海に近い地域である。鹿屋市に向かうバスは1日4便程度で、バス停は地域の住宅地から遠い。地域内に公民館がある。対象地域AのあるA町は、

表1 A地域の人口・世帯数

住民登録者数(人)	122
男(人)	55
女(人)	67
世帯数	64
高齢化率(%)	51.6

現在高齢化率45.6%^{注2)}で鹿児島県第1位である。

A地域の総人口は122人で男性55人、女性67人、世帯数64、高齢化率51.6%である(表1)。A地域の平均年齢は59.3歳、男性の平均年齢は55.7歳、女性の平均年齢は62.0歳

である。表2の年齢別・世帯別人口に示すように高齢者が多く、1人世帯、2人世帯が多く、一人暮らし高齢者や夫婦のみの世帯が多い。平均居住年数は40.5年である。

2.2 調査方法と内容

2015年10月4日から9日までの6日間、各戸を訪問し成人を個別面接して聞き取り調査を行った。「つきあいのある人」に対する回答には人数に限りがあるため、実際にはつきあいがあっても名前があげられないことが考えられる。従って本研究では、片方からだけ名前があがった場合でも双方のつながりがあるとみなす。

調査項目：項目数は全部で27あり、1人当たり30分程度のヒアリングを行った(表3)。

調査対象者：対象地域に居住する20歳以上の住民全員を対象とする。地域内の田畑に毎週数回通い、地域の人と親しくしている人も調査対象に含む。

調査方法：全世帯を訪問し、各人にヒアリングを行った。調査項目に加え、住民生活や地域の状況についての思いを把握する自由回答も求めた。

3. 調査結果

対象地域の108人の成人のうち調査回答者は96名で回答率88.9%であった(表4)。

3.1 回答者属性

回答者の属性は以下のとおりである。

性別：回答者の男女の割合はA地域全体と同様で、女性が55.2%で男性より10.4%多い(表5)。

年齢：回答者96人中、66人は60歳以上(68.8%)で、60歳以上の34.8%である23人が80歳以上である(表6)。

職業：周辺地域は田畑と海で、農業(田畑)が32.3%、無職が33.3%である。無職の78.1%は高齢者である。畜産が8人いる(表7)。

世帯構成：最も大きな割合を占めているのは夫婦のみの世帯(37.5%)で、次が3人以上(27.1%)である。独居世帯は21.9%である(表8)。

居住年数：50年以上の居住者が40.7%で最も多い。0～9年が15.6%、40～49年が13.5%である(表9)。

3.2 外出と社会参加

畑仕事をする人が多く、ほぼ毎日外出するという人が66.7%である。3～4回/週、1～2回/週までと合わせると77.1%がよく外出しているといえる(表10)。「足腰が悪い」と答えた人が14人いる。

社会参加については、自治会に37.5%、老人会に28.1%が参加しており、生き生きサロン・クラブでの活動も行われ

表2 A地域の年齢別・世帯別人口

年齢別人口					高齢化率
0～19歳	20～39歳	40～59歳	60～79歳	80歳以上	
14	9	28	45	26	51.6%

世帯別人口					
1人世帯	2人世帯	3人世帯	4人世帯	5人世帯	6人世帯
26	27	5	3	3	0

表3 調査項目・内容

調査項目	内容
属性	性別、年齢、職業、居住年数、世帯構成
外出頻度	外出頻度、外出先と手段
社会参加	参加団体
つきあい(常時)	1. つきあいがある、親しい人5人程度の名前を回答してもらう。 2. 名前をあげてもらったひととの関係性、接触頻度 3. 名前をあげてもらった人とのつきあいの内容(世間話、おすそ分け、送迎、買い物の代行等)
つきあい(緊急時)	悩みを相談できる人、緊急時に助けを求める人

表4 調査回答者

対象者(成人人口)(人)	108
回答者(人)	96
未回答者(人)	12
(拒否)	(3)
(仕事等で不在がち)	(6)
(体調不良・障害等で調査不能)	(1)
(入院中で不在)	(2)
回答率(%)	88.9
地域内出現者(人)	11
地域外出現者(人)	153

表5 性別回答者数

性別	回答者数
男性	43(44.8%)
女性	53(55.2%)

表6 年齢層別回答者

年齢層	回答者数
20～39歳	7(7.3%)
40～59歳	23(24.0%)
60～79歳	43(44.8%)
80歳以上	23(24.0%)

表7 職業(複数回答)

職業	回答者数
無職	32(33.3%)
田畑	31(32.3%)
畜産	8(8.3%)
商店	7(7.3%)
役場	3(3.1%)
警察官	2(2.1%)
老人ホーム	2(2.1%)
JA	2(2.1%)
その他	15(15.6%)

表8 世帯構成

世帯構成	回答者数
1人-独居	21(21.9%)
2人-夫婦のみ	36(37.5%)
2人-夫婦以外	13(13.5%)
3人以上	26(27.1%)

表9 居住年数

居住年数	回答者数
0～9年	15(15.6%)
10～19年	11(11.4%)
20～29年	12(12.5%)
30～39年	6(6.3%)
40～49年	13(13.5%)
50年以上	39(40.7%)

表10 外出頻度

外出頻度	人(%)
ほぼ毎日	64(66.7%)
3～4回/週	5(5.2%)
1～2回/週	5(5.2%)
1～2回/月	2(2.1%)
ほぼない	5(5.2%)
無回答	15(15.6%)

表11 社会参加(複数回答)

参加組織	人
自治会	36
老人会	27
生き生きサロン・クラブ	9
太鼓踊り保存会	6
グランドゴルフ	5
友和会	4

ている。また、この地域の特徴である太鼓踊り保存会に6人が参加しており、定期的に練習・飲み会を行っており交流を深めている（表11）。

3.3 人々のつながり

(1) 常時

つきあいのある人数の平均は、地域内で3.6人、地域外では2.0人である。つきあいのある人として近隣住民の名を挙げる人が多い。図2に示すように、つきあいのある人との関係は相手の居住地が地域内でも地域外でも、親族と非親族が半々である。地域内におけるつきあいの件数は地域外におけるつきあいの件数の1.8倍である。

つきあいでは、「世間話」が443件、「おすそ分け」が200件、「見守り」が165件で多くなされている（表12、図3）。

日常のつきあいでの関係と緊急時の関係を合わせて、平均3.4人とのつながりがある。

A地域全体と前報のS地域全体における常時と緊急時のつながりを図4 a)とa')、図5 a)とa')に示す。さらに常時と緊急時における親族、非親族とのつながりも図4 b)～c')、図5 b)～c')に示す。両地域とも常時の親族と非親族のつながりに差はない。

A地域の常時の1人あたりのつきあいの人数は5人で最高22人である。

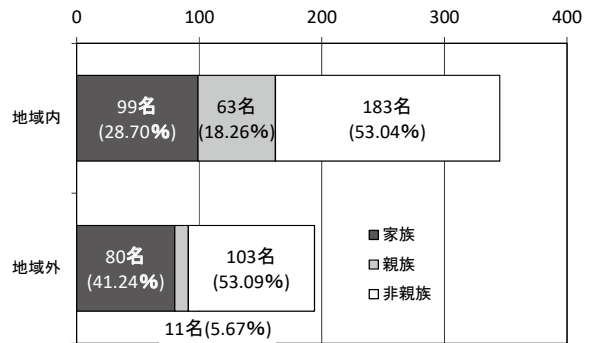


図2 地域内・地域外のつきあいの人数と関係性

(2) 緊急時

A地域には、全戸に防災行政無線があり、誰が誰を見るかは決まっている。地域の見守り活動もされているが、移動が困難な人がいる。両地域とも緊急時の親族と非親族のつながりに大差はない。

緊急時の1人あたりのつながりは3～4人で^{注3)}、最高16人である。A地域と前報のS地域を併せてみると、A町の2地域では、常時で5～6人、緊急時で3～4人とつながりがあり、常時で約3人、緊急時には約4人介せばネットワーク内の人に連絡をとることができる。

表12 つきあいの内容

つきあいの内容	世間話*	お裾分け	見守り	お誘い	悩み相談	力仕事	送迎	世話	荷物運び	代行	緊急時	
地域内	家族	97	8	28	12	14	11	17	12	10	10	94
	親族	33	31	17	9	4	12	12	3	4	4	41
	非親族	150	105	51	44	19	15	14	8	2	2	91
地域外	家族	65	20	42	5	14	9	6	8	3	3	42
	親族	8	3	3	1	1	6	1	3	1	1	6
	非親族	90	33	24	52	14	2	2	3	1	1	57
合計	443	200	165	123	66	55	52	37	21	21	331	

*同居者は世間話をするのみならず

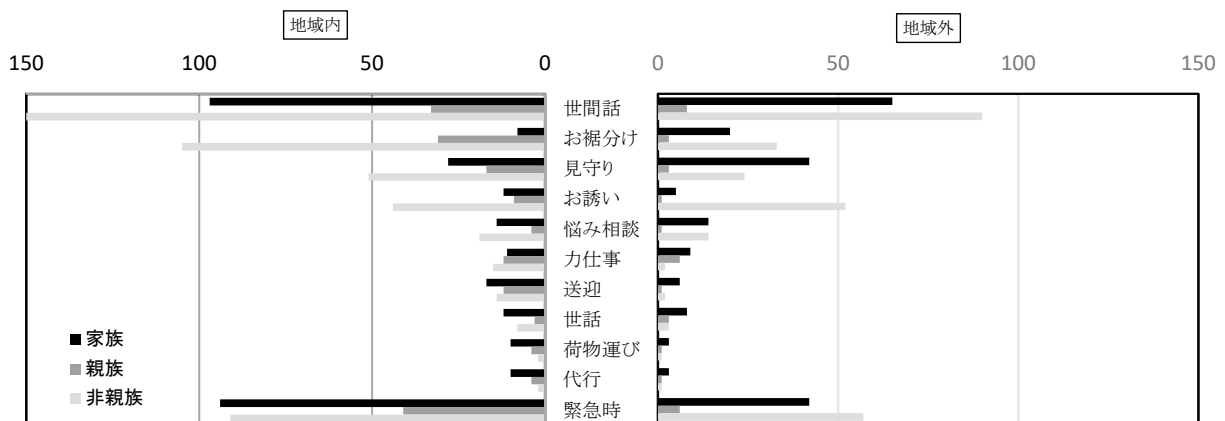


図3 地域内・地域外のつきあいの内容

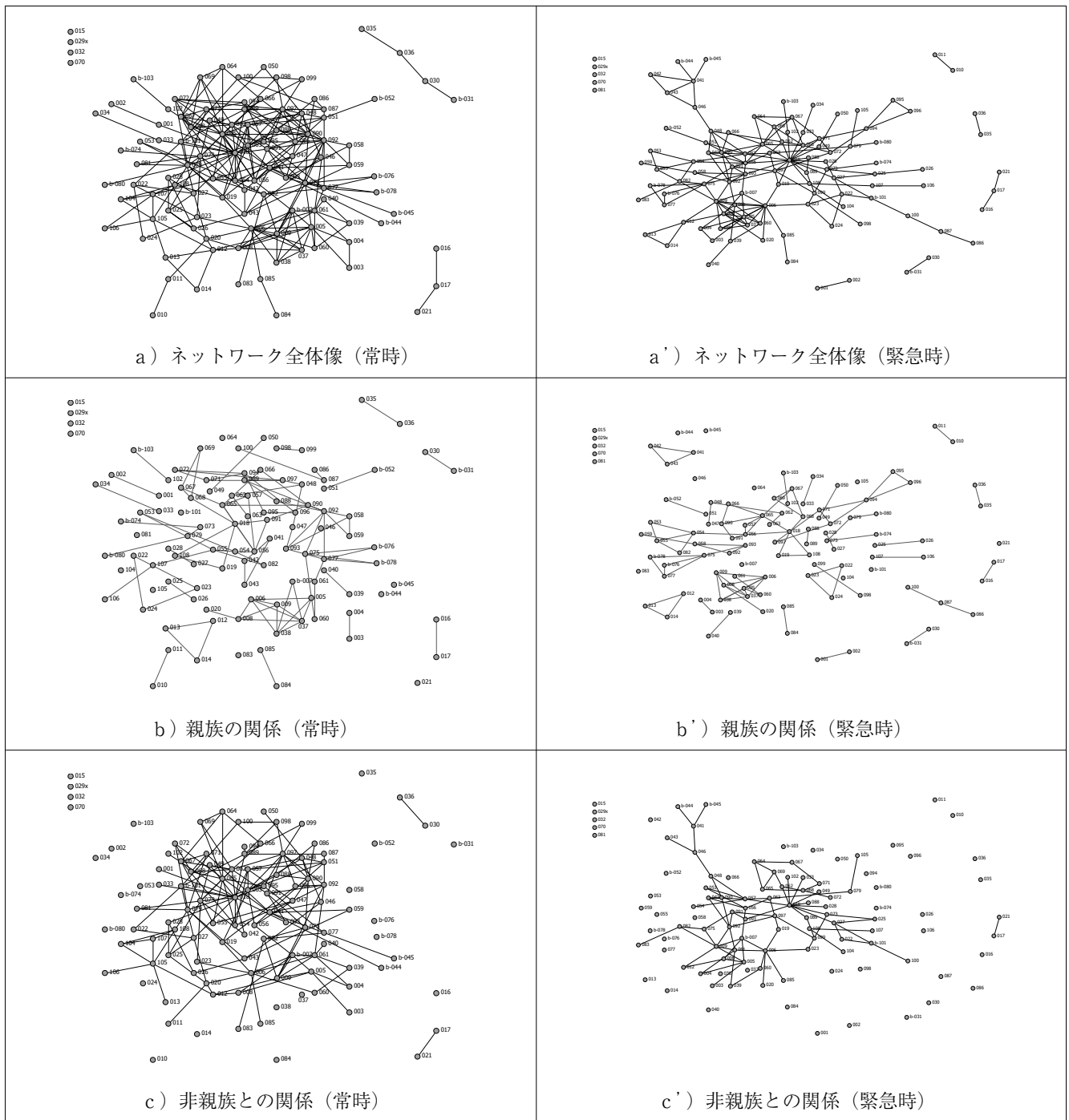


図4 A 地域の人々のつながり

高齢過疎地域における人々のつながりに関する研究（3）

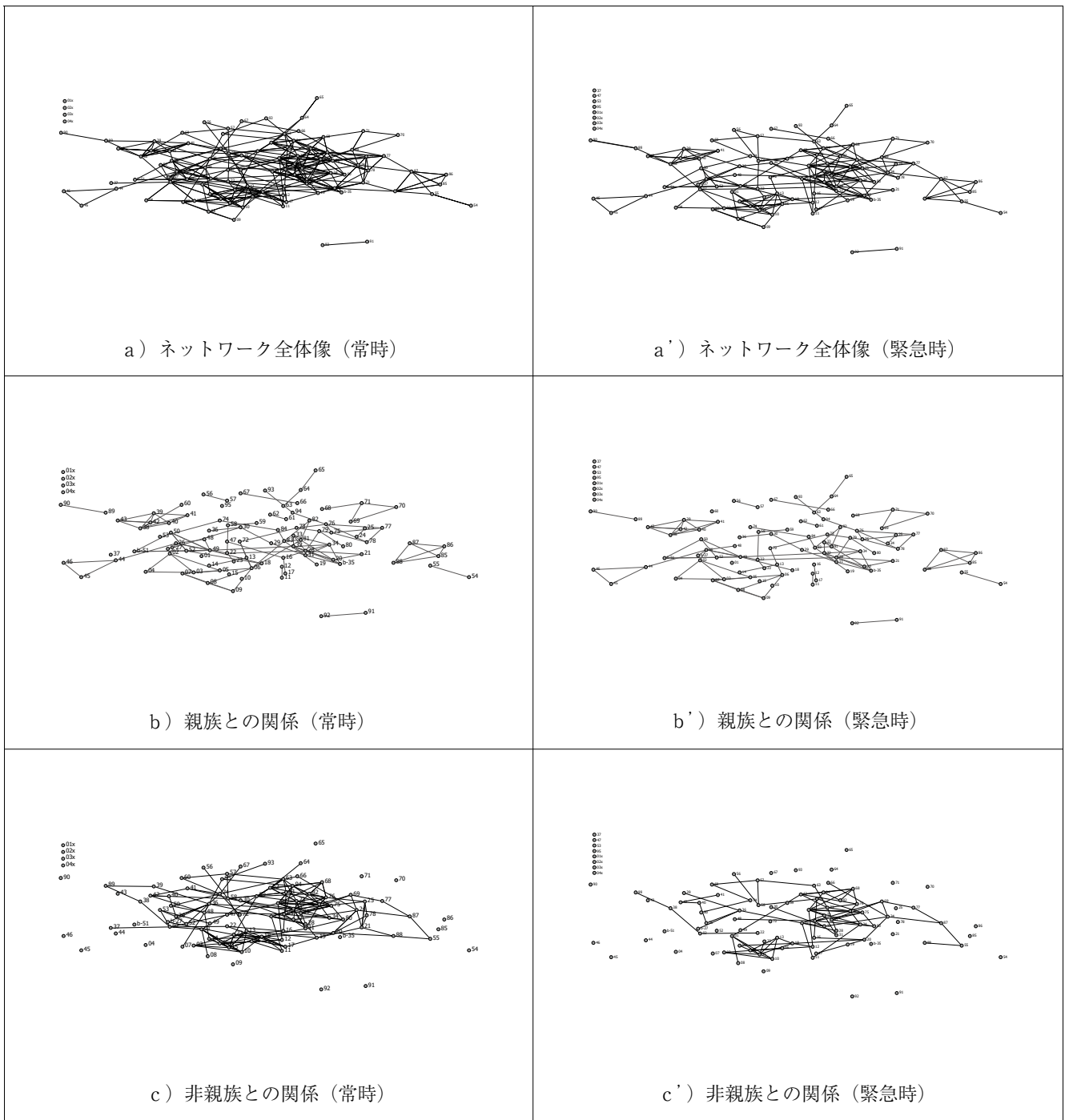


図5 S地域の人々のつながり

3.4 生きがい・楽しみ・がんばっていること

「お喋り」、「飲み会」、「人と集まる」、「老人会」、「近所の友人との会話」が12人、「釣り」、「貝採り」、「海を眺める」が5人、「グランドゴルフ」、「ゲートボール」が4人、「散歩」が3人いる。「人を笑わせたい」、「料理」、「裁縫」、「編み物」、「子育て」、「子と会う」、「孫」等もある。中には「毎日の生活でいっぱい」、「楽しみがない」という回答もあった。

3.5 地域への要望・希望

「若い人に来てほしい」、「若い人が増えてほしい」という人が8人、「バスの便を増やしてほしい」が4人、「耳鼻科・眼科」、「小児科」、「公園」、「子どもが遊べる場所」がほしい等の要望があった。「猿やイノシシに困っている」と5人が回答しているが、猿の被害がひどいので畑をやめたという人もいる。

4. まとめ

本調査では、A地域でも高齢過疎地域に共通する医療施設の問題や若者の定住促進、近年深刻な問題になっている獣害等の課題があること、また、今回調査したA地域も前回調査したS地域でも、鹿児島県の高齢化率第1位の町ではあるが、高齢者たちが地域内外の人たちと安定したつながりの中で生活していることが明らかになった。高齢で農作業をしている人が多く、外出もよくされていて地域内のまとまりが強く、他地域からの転入者が馴染みにくい側面はあるものの、社会活動に参加し交流も活発で、緊急時に活かされる人のつながりも常時とそれほど変わらないことがA地域でもS地域でも確認できた。地方では親族とのつきあいが非常に多いと予想されがちだが、非親族とのつながりも親族同様に多いということも明らかになった。現在、「超高齢社会を支える地域社会の実現」に向けて「高齢者の社会参加の推進」や「生活支援（見守り・サロン等）の充実」が言われているが、若者の定住促進が大きな課題であるものの、この地域ではある程度達してきてさらに今後期待できる素地があるといえる。

A地域の調査に協力してくださった鹿児島大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程の喜多未咲子さん始め、多くの院生・学部生のみなさんと、調査協力いただいたM町A地域の方々と役場の方々に心よりお礼申し上げます。

注1) 古川恵子, 本間俊雄: 高齢過疎地域における人々のつながりに関する研究 (2) 一隅半島S地域の実態一, 南九州地域科学研究所所報 第32号 pp45-49, 2016.3

注2) 鹿児島県ホームページ/2017.1.9

<https://www.pref.kagoshima.jp/ae05/kenko-fukushi/koreisya/koreika/koureikaritu.html>

注3) 喜多未咲子, 古川恵子, 本間俊雄他: ネットワーク解析を用いた南九州過疎地域における地域特性, 日本建築学会九州支部研究報告 第55号, p70, 2016.3

参考文献

- 1) 一般財団法人健康・生きがい開発財団: 高齢者の社会参加を通じた地域包括ケアシステムのあり方検討一週間の創出と支え手育成の仕組みづくり一調査研究事業報告書, 平成28年3月
- 2) M町ホームページ/2017.1.9
<https://www.town.minamiosumi.lg.jp/>
- 3) 喜多未咲子, 本間俊雄, 古川恵子他: ネットワーク解析を用いた過疎地域における住民相互の関係性把握, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東) 建築計画, pp.917-918, 2015.9
- 4) 喜多未咲子, 本間俊雄, 古川恵子他: 過疎・高齢地域における人と人のつながりに関するネットワーク解析, 計算工学講演会論文集 Vol.20, 2015.6
- 5) 古賀菜津美, 古川恵子, 本間俊雄他: グラフ理論を用いた地域コミュニティの構造解析一過疎・高齢地域Dの人的ネットワーク一, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (近畿) 建築計画, pp.927-928, 2014.9
- 6) 古川恵子・友清貴和: 高齢・過疎地域における高齢者の生活を支えるつきあいの広がりに関する研究, 日本建築学会計画系論文集 第568号, pp77-84, 2003.6

(平成29年1月18日 受理)